

和名：カンキツネモグリセンチュウ

学名：*Radopholus citrophilus* Huettel, Dickson
& Kaplan

英名：citrus sprading decline nematode

分布

米国、ハワイ諸島

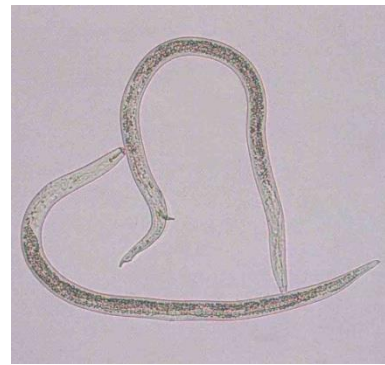


図 カンキツネモグリセンチュウ
雄成虫（上）、雌成虫（下）

寄主植物

ミカン科、アンスリウム属、バショウ属、
アボカド、アルファルファ、オクラ、コショウ、
サトウキビ、トウモロコシ等の生植物の地下部

形態

体長は、雌成虫が600～760 μ m、雄成虫が590～700 μ mである。雌雄成虫ともに、体は細長く糸状であるが、体の前方部の形態が著しく異なる。雌成虫の口唇部は低く、口針長は18～20 μ mで、よく発達した口針節球を持つのに対し、雄成虫は口唇部が高く球状に突出し、口針は細い。雌成虫の陰門は体の中央部よりやや後方に位置し、1対の生殖腺は陰門を中心に体の前後方向に伸びる。尾は細長い円錐形で、先端部はやや丸いか又はやや尖る。雄成虫は、体の後方に長さ18～22 μ mの交接刺を持つ。尾は先細りで透明な尾翼を持ち、先端部は丸いかやや尖る。

生態及び被害

本種の生態及び被害はバナナネモグリセンチュウとほぼ同じであるが、バナナネモグリセンチュウとは異なり、本種はカンキツ類に寄生する。カンキツ類の場合、根の組織が破壊されることにより、葉が小形化し、まばらとなり、小枝に枯れ込みが生じる。果実も小形化し、収量が激減する。根の加害部位からは、様々な土壌伝播する病原菌が侵入するため被害を助長する。このような被害は拡大性衰弱症（spreading decline）として知られており、米国フロリダ州の発生地域では、本種の寄生によりグレープフルーツやオレンジで40～80%の減収事例が報告されている。